

第74号



2023 年度 秋号

土木技術者女性の会 とは

<団体名>

一般社団法人 土木技術者女性の会

The Society of Women Civil Engineers

<会の生い立ち>

1982年(昭和57年)に開催された座談会「座談会・女性土木技術者おおいに語る(主催:公社土木学会)」において、全国で孤軍奮闘している女性の土木技術者同士で情報交換できるような会を結成しようと意気投合し、任意団体「土木技術者女性の会」を立ち上げました。

創立以来、他の団体等と連携を取りつつ、一貫して独立した団体として活動を続けています。2013年11月18日(土木の日)には、法人格を取得し、「一般社団法人土木技術者女性の会」となりました。

<会の目的>

土木学会誌の座談会をきっかけにしていますが、女性土木技術者特有の問題をきめ細かく取り上げ対応していくために、独立した団体として活動しています。

女性技術者の質の向上と活動しやすい環境作りのために、次のような目的を掲げています。

1. 土木界で働く女性技術者同士のはげましあい
2. 土木界で働く女性技術者の知識向上
3. 女性にとって魅力のある、働きやすい土木界の環境作り
4. 女性土木技術者の社会的評価の向上
5. 土木技術者を目指す女性へのアドバイス

<倫理規定>

当会では次のような倫理規定を定めています。

会員は、会の目的を実現する際にあたって、下記の倫理規定を遵守するものとする。

1. 会員は、会の目的に沿って、各々の良識のもとに、正しく品位ある行動をする
2. 会員は、所属組織を代表するものではなく個人の立場で会の活動に参加する
3. 会員は、会の活動において、業務上の利益に結びつけるいかなる行動も行わない

<会誌「輪(りん)」について>

1983年に開催された第1回総会にて、会誌の名前についても話し合いが行われています。

「輪」の文字は、「友達の輪」という発想より早々に決まりました。

そして、「りん」という言葉の響きの心地よさと会員同士のつながりを大事にしたいという思いを込めて名付けられました。

(1983年 第一回総会議事録・参加者証言抜粋)

目 次

- 01 巻頭言：齋藤由紀子 ～ 小さな挑戦を糧に ～
- 02 一般社団法人土木技術者女性の会 創立 40th を迎えました！
- 04 特集★一般社団法人 土木技術者女性の会
第 11 回総会及び総会関連行事 開催報告
- 05 | 第 11 回総会
- 08 | 総会関連行事「災害伝承館・土木遺産見学会」
- 11 | 総会関連行事「意見交換会」
- 13 | 参加者アンケート結果
- 14 | 参加者の感想
荒木翠子/恒成美裕己/穂刈江莉/千崎 芳/
松岡美優/小野芙子/伊藤夏美/田中真弓
- 22 ホトケの文書講座 ー其の参ー
～ 「させていただきます」の正しい言い回し ～
- 24 一般社団法人 土木技術者女性の会 組織図 2023
- 25 新任運営委員の紹介
監事 笹尾圭哉子/40周年記念誌作成 WG リーダー 鈴木由美
- 26 運営委員 退任によせて
監事 三好葉子
- 27 サポーターコーナー

- メディア掲載
- サポーターおよび新規会員募集
- 寄附制度のご案内
- 編集後記



小さな挑戦を糧に

理事 齋藤由紀子



こんにちは。2020 年度より理事（会計担当）を務めています九州支部の齋藤です。私は 2014 年に入会しました。ありきたりですが、もう 10 年経つんだ早いなあというのが感想です。

私が社会人になったのは 1996 年、茨城県つくば市にある国の研究機関で、液状化や地震時土圧の評価などの研究からスタートしました。会との出会いは、同期入省の友人が入会して活動している様子を聞いたことです。ただ、その頃の私は当会にあまり興味を持てませんでした。1995 年の兵庫県南部地震、いわゆる阪神大震災の影響で日々雑務に追われていましたし、何よりも仕事上のジェンダーギャップを感じていませんでした。若さもあり、このまま頑張れば何者かになれる、そんな気持ちでした。

さて、私の出身は九州の大分県です。研究室の関東出身の同僚には、外国に来たようなものでしょ、などと軽口を叩かれていました。スマホも普及していない、つくばエクスプレス（秋葉原とつくばを繋ぐ鉄道）も開業前で、陸の孤島と言われた頃のつくば市です。今考えると、物理的な距離の遠さだけでなく、女性は親元を離れたがらないという偏見から来た発言だったのかもしれない。

研究機関での勤務は 2012 年で区切りを付けました。転勤という形ですが、技術者の一人として九州の行政の現場に飛び込みました。そして、同じころ、やっと当会に入会することになりました。転勤前、当時の当会役員が私の勤務していた研究機関に出向されていたことがきっかけです。当会で一会員ではなくスタッフとして活動してみないか、というお誘いでした。口説き文句は、そろそろあなたも中堅なのだから若い女性

技術者の役に立つべき、ということ、もう一つは、国の機関でいろいろな意味で恵まれた環境で仕事をしてきたのだからこの業界に恩返しすべき、ということでした。もし、楽しいから入会しない？と誘われていたら、陸の孤島でそれなりに突っ張って生きていた当時の私は入会していなかったかもしれません（笑）。

いきさつはともかく、スタッフとして私の会の活動はスタートしました。担当は会計でした。仕事上の予算管理は担当しても、いわゆる企業会計の知識は無く、「貸方」って何ですか？という状態です。良く引き受けたなあ和我ながら思います。そうして、2～3 年のつもりが結局 10 年近くスタッフを務めてきました。簿記の初心者本を読んだり、NHK 高校講座で簿記を勉強したり、そうした努力は多少しましたが、多くの仲間や税理士の先生に教えを受け、迷惑をかけながらやっと続けてこられたというのが正直なところ。この 10 年を振り返って気づきましたが、本業とは毛色の違うスタッフの仕事を会員で分担し、それによって会員自身が成長すること、これは当会の特長の一つではないでしょうか。

10 年一昔と言いますが、私の任期も残り少なくなってきました。現在、当会における経理・会計の仕事は事務局の経理チームが担っています。チーム制になり、軌道にも乗ってきました。そろそろ次の世代にバトンを渡す時期です。10 年前の口説き文句、私には響きましたが、同じように受け取ってくれる人はいませんか。新しい挑戦はきっとあなたの人生の糧になります。



一般社団法人 土木技術者女性の会 創立



を迎えました!

土木技術者女性の会は、創立 40 年となりました。

1982 年に土木学会誌上で女性土木技術者の座談会が開催され、座談会のメンバーが中心となって、全国に存在するであろう女性技術者を募って当会を設立し、現在まで活動が続いています。

発足当時、約 30 名だった会員は、現在までに約 500 名・団体の大所帯となりました。発足時に制定した会の目的である 5 本の目的は、今も活動の原点となっています。当初は、全国でも希少な存在であった女性土木技術者同士の励ましあいや知識向上を目的として活動していましたが、現在は、それらはもちろんのこと、女性土木技術者が働きやすい環境作りや女性技術者の社会的評価の向上を主眼に、活動が続いています。40 年前に定めた目的を今も守り続けていることは、継続性という点で大きな価値があると考えています。

特に 2006 年には、女性の坑内労働規制の緩和に関する当会の活動が労働基準法改正につながり、女性技術者もトンネル工事に従事できるようになったことは、大きな成果だと自負

しています。ただ、坑内労働に関する規制緩和はまだその入り口であり、未だ解消、解決しなければならないことが多く、まだ活動が続ける必要があるということだとも思います。その意味で、当会の存在意義は大きいと感じています。

将来、男女問わず誰もが等しく働きやすい社会になれば、当会の役目は終え、発展的に解散できる、これが一番の目標であると考えています。

これからも魅力ある土木界の環境整備に向け、普段の勉強会等の活動はもちろん、他者への働きかけ等、様々な活動を通して、実現していきたいと思っています。

40 年に渡り活動が続けてこられたのも、ひとえに会員ひとりひとりの尽力と、そしてそれを応援して下さるサポーターの方々のご協力があったこそだと考えています。

今後とも、誰もが働きやすい社会に向け活動が続けていくにあたって、変わらぬご支援、ご協力をいただけますようよろしくお願い申し上げます。

(一社) 土木技術者女性の会
会長 牛山 育子

40 周年の主な取り組み



『創立 40 周年記念誌』発行



ついに当会の軌跡や将来への展望を描いた大作が完成しました！電子ブック版で公開されています。

表紙は、シンボルロゴを作成したデザイナーの南部さんに手掛けていただきました。

会誌「輪」 限定デザイン



非公式キャラクター『ぶたさん』 無料素材集の公開



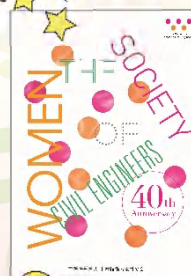
ウェブサイトからダウンロードし利用できるようになりました。※ご利用の際は、利用規約をご確認ください。

非公式キャラクター『ぶたさん』 40 周年バージョン登場

「40th」をはじめ、ウェブサイト等で新しいぶたさんが登場しています。探してみてください。



40 周年ポスター



記念誌の表紙デザインからポスターを作りました。総会や各支部イベントなどで活用していきます。

当会のリーフレット リニューアル



2 種類のデザインにリニューアルされました。

Web 会議用オリジナル背景 40 周年バージョン



ウェブサイトからダウンロードできるようになり、総会でも登場します！

皆さんも一緒に盛り上げていきましょう☆

(一社)土木技術者女性の会 第11回総会及び総会関連行事 開催報告

日程:2023年6月23日(金)・24日(土) 開催担当:九州支部

第11回総会 p.5

日時:2023年6月24日(土) 10:30~12:00

場所:福岡県立ももち文化センター(ももちパレス)小ホール

総会関連行事

「災害伝承館・土木遺産見学会」 p.8

日時:2023年6月23日(金) 13:00~18:00

場所:福岡県東峰村災害伝承館、
山田堰、揚水車群(三連水車)

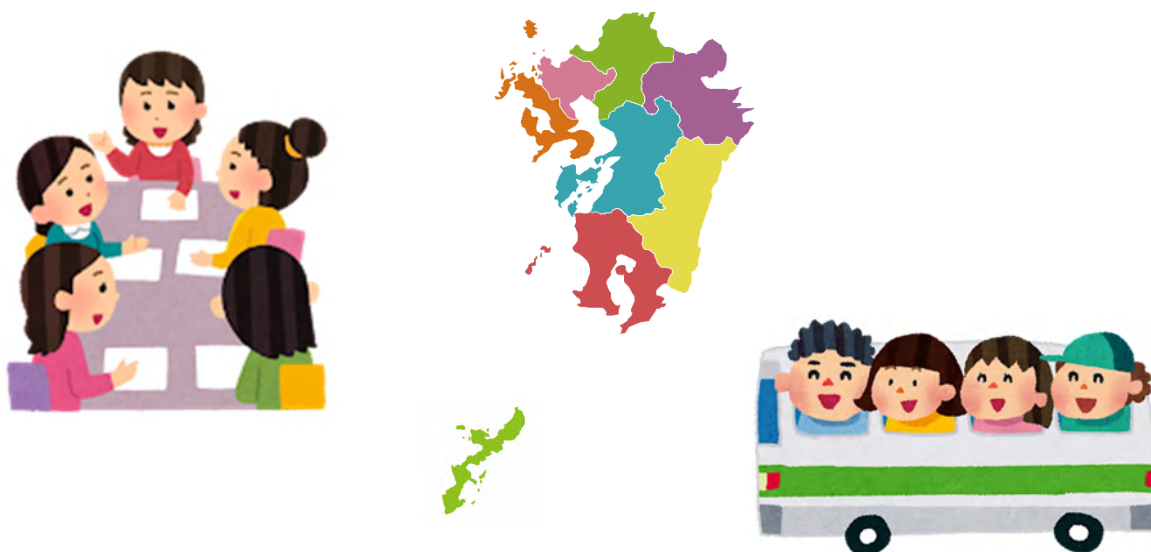
「意見交換会」 p.11

日時:2023年6月23日(金) 18:30~20:30

場所:JR博多シティ くうてん 10F ステーキ&ワインスタイルぶどうの樹

参加者アンケート結果 p.13

参加者の感想 p.14



第11回総会

日時：2023年6月24日(土) 10:30~12:00

場所：福岡県立ももち文化センター(ももちパレス)小ホール

参加者：正会員 29名(会場参加)

電磁的議決権行使 112名 計141名

(議決権のある会員数352名の10分の1以上で成立)

報告者：佐伯亮子(九州支部)

(一社)土木技術者女性の会 第11回総会が2023年6月24日(土)に福岡で行われました。4年ぶりの対面かつ、初の九州支部での開催でしたが、九州支部以外の会員も多く参加する総会となりました。また、会場に来られない方も参加、傍聴できるように会場とオンラインのハイブリット形式で行いました。

はじめに、牛山育子会長より、総会・見学会への参加に対するお礼とともに、当会が創立40周年を迎えたことについて、挨拶を交えてお知らせがありました。そして、数ある団体の中でも40年という歴史のある女性技術者の団体は我々だけではないかということ、この40周年の節目を迎えられたのも、諸先輩方の職場環境改善への努力の賜物であること、会員一人一人、サポーターの方々の協力なくしては成し得なかったことを述べられました。

その後、選出された議長からの総会成立の宣言があり、本総会の議案が、出席者(電磁的議決権行使者および委任状提出者の議決権

を含む)過半数の賛成で成立する普通決議であることが説明されました。

最初に、第1号報告として南理事より2022年度事業報告、第2号報告として三好監事より2022年度監査結果の報告がありました。続いて、第1号議案2022年度計算書類について本田理事から説明があり、正会員の議決権の過半数の賛成で可決されました。さらに、第2号議案2023年度事業計画(案)について南副会長、第3号議案2023年度収支予算(案)について本田理事より説明があり、こちらも可決されました。

次に、牛山代表理事より第4号議案 監事選任について説明があり、2名の監事選任について可決されました。

最後に、牛山代表理事より第3号報告 運営委員の任命(案)として新任も含め運営委員17名、第4号報告 顧問の選任として顧問委嘱予定者7名について報告があり、予定終了時刻の12:00までに閉会しました。



【牛山会長からの挨拶】



【採決の様子】

閉会后、進行を九州支部に移して、企画広報局長、各支部長（東日本支部は代理）およびWG リーダーより 2022 年度の活動内容や 2023 年度の活動計画の紹介を行いました。各支部の活動では、新型コロナウイルスの影響も収まりつつあることから、対面イベントの復活等、活動形態が元に戻りつつあると感じました。また、40 周年記念誌の内容がお披露目され、今までの会の歴史だけでなく、多くの関係者の生の声が掲載されている、発刊が待ち遠しい内容でした。最後に、会場の参加者が 40 周年記念のポスターを掲げて、オンラインの方々も含めた記念撮影を行い、和やかな雰囲気では終了しました。

今回の総会は、本格的に多くの参加者を会場に迎え、かつ Web でも配信する取組となり、シナリオの修正や会場設営、画面共有等、一から考えることが数多くありました。不慣れな九州支部スタッフでしたが、多くの皆さんの支えで無事に開催することが出来ました。

また、ハイブリッド開催の要となる Web 配信機材を株式会社山九ロードエンジニアリング様（会員所属）に快くご協力いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

次回は北海道支部での開催になります。
皆さん、来年、北海道でお会いしましょう！



【各支部の取組紹介】



【会場の様子】



【全国から集まったお菓子】



■議事次第

開会

I.はじめに

- 1.会長挨拶(牛山育子)
- 2.議長選出(九州支部 佐伯亮子)
- 3.総会成立の宣言

II.議案審議

- 第1号議案 2022年度計算書類
- 第2号議案 2023年度事業計画(案)
- 第3号議案 2023年度収支予算(案)
- 第4号議案、監事選任

III.報告事項

- 第1号報告 2022年度事業報告および計算書類報告
- 第2号報告 2022年度監査報告
- 第3号報告 運営委員の任命(案)
- 第4号報告 顧問の選任

次回・次々回総会開催の担当支部

- 次回の総会(2024年度):北海道支部
- 次々回の総会(2025年度):東日本支部

閉会

- ※総会の議事録は、当会ウェブサイト
＜会員ページ＞に掲載しています。



【Zoom参加の集合写真】



【会場の集合写真(創立40周年記念ポスターと一緒に)】

総会関連行事「災害伝承館・土木遺産見学会」

日時：2023年6月23日（金） 13:00～18:00

場所：福岡県東峰村災害伝承館、山田堰、揚水車群（三連水車）

参加者：正会員25名、その他社会人 1名

報告者：佐伯亮子（九州支部）

総会の関連行事は、福岡県東峰村および朝倉市にて「災害伝承館・土木遺産見学会」を開催しました。初の福岡開催ということもあり、総会同様、全国から多くの方々にご参加いただきました。

今回の見学場所である福岡県東峰村や朝倉市は、2017年（平成29年）7月に記録的な豪雨が発生し、河川の氾濫、流木、土砂災害等の甚大な被害を受けました。今回の見学会では、豪雨による被害の状況や復興の状況について学ぶとともに、山田堰や揚水車群など、江戸時代から今日まで引き継がれているくらしを支える土木技術について学ぶコースを回りました。その様子をタイムスケジュールに沿って報告します。

◆12:30 受付開始

博多駅バス乗り場周辺で、ひときわ目立つ女性集団を発見。皆さんさすがです。事務局の集合時間より前にしっかりと集まっておられました。参加費や意見交換会費の集金も非常にスムーズ。こういう時、女性って何でこんなにも協調性が高いのでしょうか。

◆13:00 博多駅出発

時間どおりに出発です。牛山会長、植田支部長から挨拶と趣旨説明があり、いよいよ見学会がスタートです。

◆13:00～14:20 ペシャワール会 DVD 視聴（車中）

車中も無駄にはしません。戦乱のアフガニスタンで井戸を掘り、マルワリード用水路を造った

中村哲さんの偉業について、DVD で学びました。一本の用水路を完成させるまでの苦悩と、山積する問題、やり遂げるための努力と苦勞を学び、土木技術は失敗と経験で完成されていくのだと感じると同時に、こうやって過去の技術者によって、今の私たちの生活があるのだと改めて土木技術の大切さに気付かされました。



【牛山会長からの挨拶】

◆14:20～15:30 東峰村災害伝承館見学・講話聴講

災害伝承館では、東峰村役場職員の方から、2017年（平成29年）の九州北部豪雨の際の被害状況や復興の過程についてお話いただきました。被災の経験を踏まえ、避難情報を如何に早く確実に伝えるか、どういった手段で伝えるのか、平素から防災意識を醸成することが非常に大切であることを学びました。また、女性の地域リーダーや災害復興アドバイザーの育成等にも取り組まれていました。逃げタオルという取組

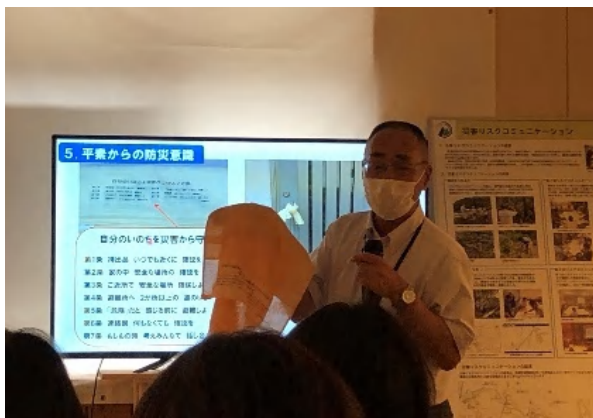
が印象的で、これは災害時に玄関などにタオルをかけてから逃げることで、救助や捜索活動をする方たちが無駄な行動をとらなくても良いようにする運動だそうです。これらを始めとする防災活動を日常的に実践することで、地域での防災力が底上げされており、防災活動が非常に身近に感じられました。



【東峰村災害伝承館】



【熱心に聞き入る皆さん】



【逃げタオル】

◆15:30～16:10 朝倉地域の被災状況と復旧事業、山田堰・堀川用水の歴史（車中）

次の移動の車中では、九州北部豪雨の際に福岡県朝倉県土整備事務所に勤務されていた恒成さんと、福岡県から応援に駆けつけて災害対応にあたられた本田さんから、当時の現地での混乱した状況や復旧に向けた工事の状況、復旧後の現在の状況等について説明がありました。非常に過酷な状況の中、多くの災害復旧事業を立ち上げ、管理し、進めてきたことを知るとともに、車中から実際の河川改修工事の状況等をあわせて見ることで、被災範囲が広範囲であることや、急峻な地形での災害対応に対して多くの技術が活用されていることを感じました。

◆16:10～16:30 山田堰見学

日本唯一の傾斜堰床式石張堰である山田堰を見学しました。山田堰は朝倉市の農業水利施設として、農業生産性の維持や人々の農業経営を支えてきました。中村哲さんも山田堰で活用されている日本の高い土木技術を参考に、マルワリード用水路の建設を行ったそうです。皆さん説明パネルを熟読され、写真を撮りながら、当時の技術の高さに感銘を受けていました。



【山田堰】

こちらでは集合写真を撮影し、高画質なカメラをお持ちの新聞記者の方々から素敵な写真をご提供いただきました（次ページ）。

◆16:30～16:45 朝倉の揚水車群見学

最後に、山田堰の関連施設として、揚水車群（三連水車）を見学しました。タイトなスケジュールに合わせて、皆さんてきぱきと行動いただき、水車の仕組みをじっくり観察しながらも、やっぱりはちみつアイスも味わっていました。暑かったので、清涼感ある水の音とアイスの糖分で、すっかり元気になりました。



【写真撮りまくり】



【はちみつアイスに舌鼓】

◆18:00 博多駅到着

皆さん怪我等もなく、無事時間どおりに到着です。

今回は、東峰村にて九州北部豪雨の被害や復興状況について、当時関わった方々の生の声を聴くことで、より深く当時の状況を知るとともに、土木技術の大切さを再認識しました。

また、朝倉市で人々の生活を支える土木施設を見学し、災害は繰り返されていること、その都度技術は進化していることを学び、私たちの仕事の意義を噛み締めた見学会となりました。

以上



【記者さんのカメラで記念撮影】

総会関連行事「意見交換会」

日時：2023年6月23日(金) 18:30~20:30

場所：博多駅くうてん ステーキ&ワインスタイル ぶどうの樹

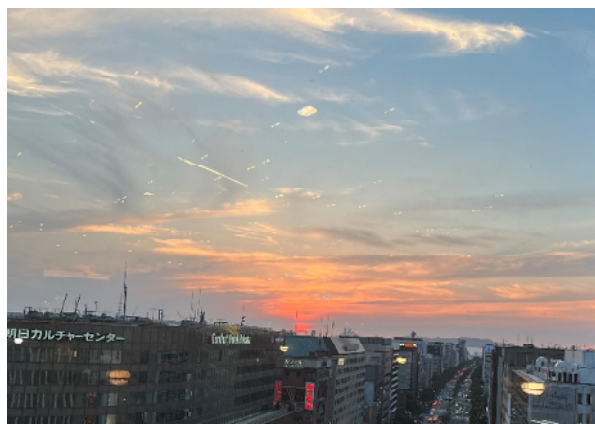
出席：正会員26名、その他社会人1名

報告者 高橋典子(九州支部)

博多駅11階にある”ステーキ&ワインスタイルぶどうの樹”にて、久しぶりの対面で意見交換会が行われ、27名の正会員が参加しました。

牛山育子会長の挨拶のあと、九州支部の佐伯副支部長による乾杯の掛け声で意見交換会スタート！ ちょっとお洒落にスパークリングワインでの乾杯でした。そのあとは自由に歓談。雨こそ降らなかったものの気温・湿度ともに高く、九州の梅雨らしい気候も満喫し、皆さんだいぶ喉が渇いていたようです。冷えたビールが五臓六腑に染み渡ります！ 久しぶりに対面で会う機会になったため、会えなかった間の積もる話に花が咲きました。九州支部にとっても、支部設立後初の対面での意見交換会。ようやく会ってゆっくり話すことができ、会話が弾みました。

会場は博多の街や博多湾を望むロケーションで、福岡のこの日の日の入り時刻は19:32。いつまでも明るい窓の外を見て、時間とのギャップに驚く会員や、やがて博多湾へと沈んでいく夕日を写真に納める会員も！



【夕日と博多湾】



【各テーブルの様子】

意見交換会では、「じゃんけん大会」も開催され、ますます盛上りました。じゃんけん大会の勝者には九州支部開催にちなんだ福岡名物「ごはんとまらんらん明太子」、熊本名物「風雅巻き」、宮崎名物「鶏めしの素」がプレゼントされました！

左から

西日本支部 大植敦子さん

中部支部 藤代祥子さん

西日本支部 三好葉子さん

おめでとうございます！



【三人の勝者】

一度席替えをした後は自由に席を移動。会のこと、仕事のこと、プライベートのことへと話が及び、気が付けば終了時間が近づいていました。

九州支部の植田支部長より、初めての九州開催に集まった会員への感謝や、総会における意気込みにて締めくくり、意見交換会は無事に終了しました。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、元気な皆さまは二次会へと出発していきました。



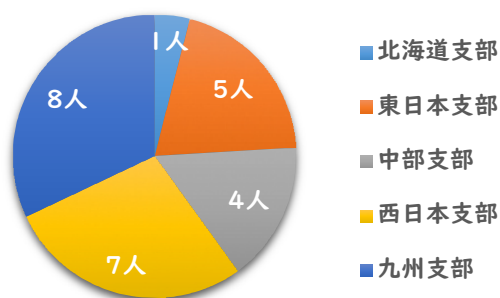
【記念撮影の様子（創立 40 周年記念ポスターと一緒に）】

参加者アンケート結果

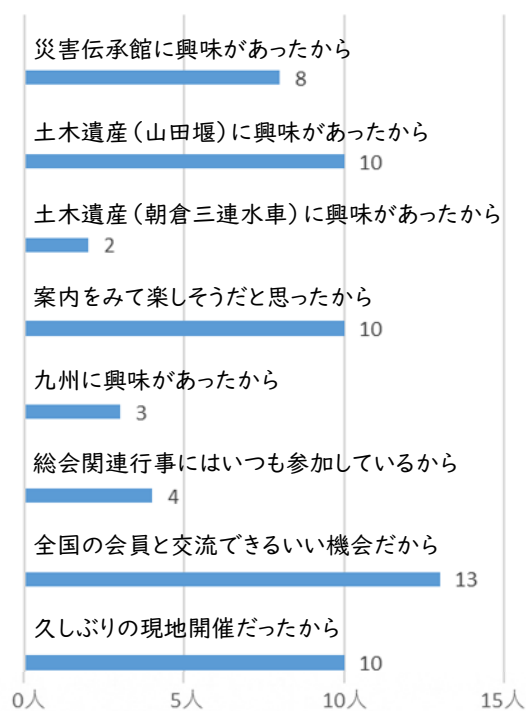
回答数: 19 名

(参加者数: 25 名)

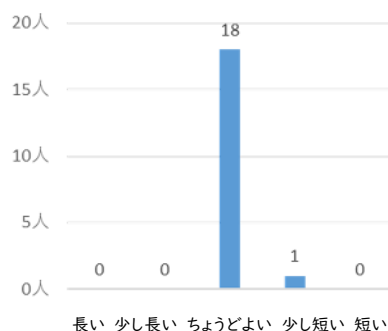
1. 参加者の所属支部 (25 名)



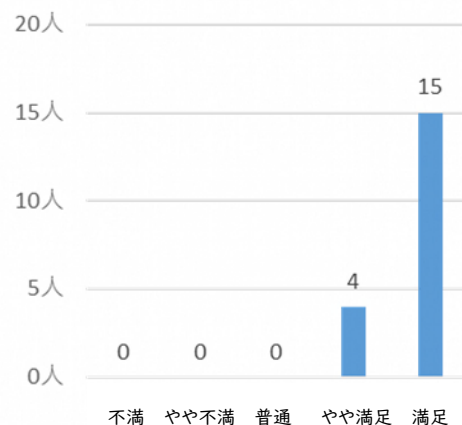
2. 参加理由 (複数回答)



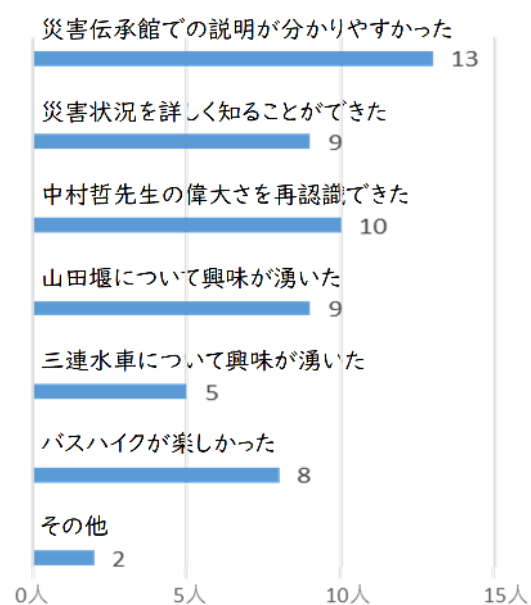
3. 関連行事全体の時間



4. 関連行事満足度



5. 特によかったところ



参加者の感想



総会へのリアル参加

荒木翠子
(九州支部)

通常総会に初めて出席しました。私が当会へ入会したのは、コロナ禍の真っ只中で、その直後、一度だけリモートの支部会に出席していました。しかし、その後は出向中で、なかなか自由が利かなかったこともあり、イベント等にも参加できていませんでした。今回の総会は、初めて九州での開催ということで、ぜひ皆さんの顔を拝ませさせていただこうと、運営のお手伝いでも参加致しました。

総会での私の仕事は 2 つありました。まずは、受付の担当です。失礼ながら、どの支部のどんな様か存じ上げない方ばかりだったのですが、受付で聞こえてくる方言やスーツケースの大きさ、持ってきてくださったご当地のお土産などから楽しく謎解きゲームをしていました(笑)。皆さん、とても気さくな方ばかりで、お土産はどれもこれも珍しくバラエティ豊かで、とてもそそられました！

もう一つは、総会での写真撮影担当です。これが、なかなか会議風景の撮影というのは難しいもので、飛んだり跳ねたりと、起伏に富んでいるわけではないので、同じ描写とならないよう、工夫を行いました。もちろん、色々な方のお顔が写るように、また、議題提案/発表されている方のお顔が少しでも光るようにと、色々な瞬間を狙っていました。

そんななか、一番印象的だったのは、総会最後の集合写真撮影時です。皆さんがカメラの前に集まりだして、わらわらとポジションやポーズ決めをされている最中、実は隠し撮りをしていま

した(笑)。これがなかなかナチュラルな風景で笑顔も垣間見れ、とても気に入っている写真です。九州支部長の植田さんにも、最後の集合写真撮影前は「わちゃわちゃしていて好き！」とお墨付きをいただいた自慢の1枚です♪



【わちゃわちゃで撮影準備♪】

さて、ここでいきなりですが、私の仕事を少し紹介させてください。お役所の交通部署で「MaaS」の推進に取り組んでいます。皆さん、読めますか？ 濁点は要りません。「マース」です。MaaS って何ぞやかかというと、「Mobility as a Service (モビリティ アズ ア サービス)」の頭文字を取った言葉なのですが、簡単に言うと、新たな交通の概念です。全然、簡単ではありませんね。今の日本は、人口減少、高齢化社会、運転手不足など、公共交通を維持していくうえで様々な課題に直面しています。ですが、公共交通は維持していかなければなりません。例えば、今まで乗り換え無しの電車 1 本で行けていた場所へ。これからの時代、乗り継ぎはあったとしても、電車じゃなくなったとしても、でも公共交通で繋げる。大きい路線バスじゃなくて、小さいデマンド交通になったとしても、公共交通で繋げる。そのためには、今までライバルだった交通事業者同士が協力し、また、官と民も連携する。そうやって地域住民のために公共交通を維持していく。これが MaaS です(色々なご意見あるこ

とは理解していますが、今日は目をつぶってやってください)。

総会で色々な地域の色々な土木業の方々が一堂に会する。今まで繋がっていなかったものが繋がる。これってMadSに似てるわ、と総会中に思ったわけです。

この 20 年、世の中はテクノロジー、政治、人口形態など様々な変化が起きたと言われています。20 年前の私は、公務員になるつもりもなかったし、まさか土木業で働くとも思っていません。でも変化が起こるからこそ、次々に新しい技術が生まれて、土木業界でも ICT とか働き方改革とか、女性に優しい職場にもなりつつあったり……。この先の 20 年もそんな新しい出会いがあることを願って、また、世の中の女性が(男性も)働きやすい生きやすい世の中になることを願って、明日も出勤したいと思います。



「災害伝承館・土木遺産見学会」に参加して

恒成美裕己
(九州支部)

今回九州支部初めての開催となる総会および関連行事の現場見学会に参加致しました。今回訪れたのは、「平成 29 年(2017 年)7 月九州北部豪雨」による災害の記録を保存し後世に伝える「災害伝承館」と「世界かんがい施設遺産」である「山田堰」および「三連水車」です。

1. 災害伝承館(福岡県朝倉郡東峰村)

今回私は他の参加者の皆さんとは、少し違った思いをもって参加致しました。2017 年 7 月 5 日から 6 日にかけて、福岡県の朝倉市、東峰村および大分県日田市に甚大な被害をもたらした「平成 29 年 7 月九州北部豪雨」災害当時、朝倉市および東峰村を管轄する福岡県朝倉県土整備事務所に在籍しており、当時の状況を追体

験するとともに 6 年後の復旧状況を見たいと思ったからです。

6 年前のこの日、梅雨前線により形成された「線状降水帯」により、わずか 9 時間で 774 ミリの雨量を観測し、各地へのアクセス道路は土砂と流木で寸断され、とりわけ電話や携帯電話が全くの不通状態であった東峰村付近は状況が全く分かりませんでした。発災後の緊急工事を担う業者さん、従前に福岡県と「風水災害時の緊急対策工事等に関する協定」を結んでいる地元の建設業者さんが、東峰村には当時 3 社の協定業者さんがいたと記憶していますが、全く連絡が取れず、朝倉市内ではすでに被災された協定業者さんの情報もあったことから、無事が確認できた時には、ほっとしたものです。

その後は県、国、警察、消防、自衛隊入り乱れての怒涛の日々となるのですが、件の協定業者さんも 8 月のお盆まで一日も休むことなく緊急工事にご協力いただきました。

伝承館で当時の状況を伺いつつ、役場の職員さんやたくさん関係者の方々の奮闘ぶりを思い出していました。

さて、伝承館では当時の状況のほか、村独自の減災対策が紹介されていましたが、その一つに、毎年村民の約半分が参加される避難訓練を行っており、今年も 6 月 25 日に実施されたとか。村民の約半分となると、おそらくほぼ全世帯が参加されているのではないのでしょうか。

また、「自分の命を災害から守る 7 か条」が書かれたタオル「逃げタオル」と呼んでおられましたが、これを配布されているそうです。このタオルは有事の際の避難済みを示すため、玄関先に結んでおくのがルールだとか。これにより避難済みであることが瞬時にわかる素晴らしい取組だと思いました。

2. 山田堰と三連水車(福岡県朝倉市)

行きの車中では「アフガニスタン 千ばつの大地に用水路を拓く 治水技術 7 年の記録」の DVD を視聴しました。これは、2019 年に亡くなった中村哲医師が 7 年の歳月を費やし、アフガニスタンに用水路を築造した記録です。

この工事では随所に蛇籠や柳枝工などの日本の伝統工法が使われており、現地の人々が、自分たちで補修することができるよう工夫されています。その中でも取水の要となるマルワリード堰のモデルになったのが、山田堰です。

山田堰は江戸時代に築造された石張り堰（傾斜堰床式石張堰）で、筑後川の水流を和らげるよう斜めに堰き止める形式になっており、取水された水は、堀川用水を経て三連水車や下流の二連水車2基で揚水し高所へもかんがいできるよう工夫されています。なお、これらはその技術力と歴史的背景を評価され、2014年に「世界かんがい施設遺産」に登録されています。私は福岡にしながら、今まで見学する機会がなかったため、今回の見学会に参加して、なにやら長年の宿題を果たした気分でした。

3. 最後に

今回、他の見学者の方々は気づかなかったと思いますが、東峰村から山田堰に向かうバスの車窓から、最も被災の大きかった箇所の一つである、赤谷川や乙石川が見られたのですが、見事に復旧された様子を見ることができました。豪雨直後、朝倉市や東峰村の至る所で河川や道路などの公共施設被害が発生し、多くの農業施設や民間施設も被災しました。

堀川用水は土砂と流木で閉塞し、三連水車も動けなくなり、水車見学のためにバスを駐車させていただいた「藤井養蜂場」さんは、直売店や工場がひざ下までつかれる被害に遭われ、大事なミツバチ25万匹を失われたと聞きました。6年経った今、これらのほとんどが真新しいコンクリートの色のほか、一見何事もなかったかのようになり元の姿を取り戻しています。その間、ここに至るまで関係者の方々は、様々なご苦労をなさったことと思います。そのことに思いをはせ、当時のよもやまを思い出しつつ、感慨深い見学会参加となりました。



コロナ明けの関連行事・総会に参加して

穂刈江莉（西日本支部）



【山田堰の前で撮影したものです！】

お初にお目にかかります。この度、土木技術者女性の会に入会致しました。入会した経緯は、同じ会社の大植さんからご紹介いただいたことです。大学で農業土木を学んでいたこともあり、今回の総会関連行事で山田堰を見ることができた機会をいただけて非常にうれしかったです。初めて参加する見学会の開催地が、緑豊かな場所であったため、非常にリラックスした気持ちで参加することができました。

また、交流会にあたり多様な経歴をもつ女性土木技術者の方と交流の機会を持てることは非常に貴重な機会だと感じます。そのうえ、仕事関係で直接知り合う形ではなかったため、気負う必要はなく、自然体の姿勢で臨むことができました。お忙しい中、2023年度の総会関連行事、意見交換会を開催してくださった九州支部の皆さま、関係者の方々に深く感謝申し上げます。

1. 関連行事について

現地の集合場所であった博多駅から、東峰村にバスで移動している最中にビデオを見ました。その内容は医師である中村哲が、干ばつで苦しむ難民の患者が必要なものは水であると考え、用水路の建設に至るというお話でした。バ

スで映像を流したのは、用水路の取水堰のモデルになった山田堰を現場で見る前に、山田堰の構造的特徴をより印象深くさせるためだと思います。江戸時代の土木技術の知識を異国の干ばつ地帯に活用し、取水口に急流が流れないよう工夫した先人の知恵と技術にはとても感銘を受けました。

しばらくバスに揺られていると、東峰村災害伝承館に到着しました。そこで、元消防士の方が、2017年7月九州北部豪雨災害の被害の状況と住人の災害に対する姿勢を教えてくださいました。彼は当時、救助活動を行っていたこともあり、より被災した時の思い入れが強いと感じました。

東峰村の特徴として、毎年梅雨の時期に避難訓練が行われます。出席者は住民の半数にも上ります。特に印象に残ったことは、住民が被災した際に、最も報道してほしい事項が、道路状況に関するものだったことです。改めて道路による避難経路の確保の重要性を感じました。

2. 第11回総会に参加して

総会の関連行事に参加したものの、土木技術者女性の会がどのような企画を実施しているか知りませんでした。その状況で総会に参加したところ、2022年度の決算報告から、各活動にどの程度の費用がかかるのかを理解することができました。また、2023年度事業計画(案)において、それぞれの事業の詳細内容が記されており、各事業に込められた面白さを感じ取ることができました。総会に参加し、全国に渡って土木関連の行事の実施、そして女性の土木技術者の交流の機会を生み出す女性土木の会は重要な組織であると感じました。



総会関連行事 災害伝承館・土木遺産見学会に参加して

千崎 芳
(西日本支部)

入会は、昨年に職場の方から誘っていただいた『真夜中の工事現場見学会』がきっかけでした。大きな鉄の塊が微動しながら橋が架けられていく様子は圧巻でした。もっと早くに入会したかったです。

今回、初めて総会関連行事「災害伝承館・土木遺産見学会」に参加致しました。見学会は、13時に博多駅をバスで出発し、東峰村災害伝承館を見学し、災害伝承ガイドから平成29年の九州北部豪雨災害の被災状況と復旧事業について、講話を拝聴しました。記憶にあるよりも、現地で見えて聞いて、線状降水帯の発生において地形上のリスクが高いこと、当時の被災だけでなく未だ復旧途中であること、また同じことを繰り返さないためにも伝承していくことの大切さを感じました。この次に、堀川用水と山田堰見学へ。山田堰は、江戸時代に完成し、改修しながら、現在も治水の役割を果たしていて、広くなだらかな勾配を持たせた堰は雄大でした。また、中村哲医師により建設された、アフガニスタンの用水路の建設モデルにもなっているとのことでした。その後、朝倉の揚水車群に移動。日本最古の実働する水車だそうです。人のくらしを支え、受け継がれていく土木技術は偉大です。時間が押していたようですが、近く道の駅のような所で時間を確保(ソフトクリームタイム!)してください。幹事さんの計らいに、女性の会ならではのお気遣いを感じました。戻りのバスでは、6年前の九州北部豪雨災害において、公職員の立場で復旧対応、国の補助金申請など対応されてきた方からの当時のお話があり、日ごろと立場の違う視点からの災害対応のお話が新鮮でした。

この後の懇親会にも参加し、土木と言っても違う業種の方々と話すことも楽しく勉強になりました。

見学会は、それぞれの専門技術者の視点が入った行程と内容が詰め込まれており、自力では見学できない貴重な経験でした。ツアーを組み立ててくださった九州支部幹事の方々、今まで継続してきてくださった方に感謝します。

さいごに、この見学会の2週間後に、豪雨災害が起こり、見学会で訪れた東峰村のインフラが崩れたニュースが入ってきました。何もできなかったのですが、気に留める人が1人でも増えることは、防災意識の向上に役立ち、伝承の大切さにつながると、改めて思いました。



【山田堰】



初めての 総会への参加

松岡美優
(中部支店)

私は昨年末に会に入会し、今回が初めての総会となりました。入会当初より、「会員ならどなたでも参加可能です」と伺っていたので、早くから現地での参加を目指して、何が近くにあるのかなー、福岡タワーの近くが会場なんだ、どのように過ごそうかなー、と色々と計画を練っていたのですが、直前に遠方の親戚の訃報があり今回は断念しました。会の皆さまとお会いできるのを楽しみにしていたので、現地で参加できないことはとても残念でしたが、せめて実際の様子を拝見できればと思いリモートでの参加を申し込みました。直前までバタバタとしていたものの、

何とか参加することが出来ました。途中、子どもがやってきてイヤホンを1つずつ付けながら一緒に傍聴したりしておりました。

この4月より、企画広報局にて活動をご一緒するようになったことから、運営委員のメーリングリストに参加したこともあり、開催に向けて準備されている様子を拝見しつつ総会までの期間を過ごしました。運営委員の方々を始め、関係者の皆さまが様々な議論をされながら、準備をする様子は「これを皆さん本業の合間に行っていらっしゃるなんてすごい。。。と、衝撃でした。と同時に、しっかり意見を交わしつつ協力しながら準備を進めてらっしゃる様子が、とても素敵だなと感じました。

総会は、30分程度で終了しました。実際に各局、各支部からの報告を伺う中で、どのような活動をしているのか少し理解が深まったように感じています。メールでのみ目にしていた方々の顔も一部拝見することができ、「いつもお世話になっております。」と心の中で呟きながら、総会中の時間を過ごしました。ほんの少しではありますが、皆さんとの距離が近くなったように感じました。今回参加する中で一番印象的だったのは、最後に行われた会誌「輪」の発行に関する報告についてでした。編集を仕事の合間に行うという制約のある中で、会員の皆さまが楽しんでもらえるような企画、編集を行ってくださっているのだ、ということがとても伝わってきました。また、生理に関するアンケートに対し、90名以上のこれまでにない多くの方が回答されたとの報告があり、関心の高さを感じました。女性であれば当たり前にある生理ですが、実際に悩んでいることや困っていることを相談する機会はほぼないこともあり、このような特集は嬉しいなあと感じておりました。

来年は北海道ということで、次回こそは！ぜひとも現地参加が出来ればと思っています。無事に参加できましたら、その時は皆さまどうぞよろしくお願い致します。



総会に参加して

小野 芙子（東日本支部）

1. はじめに

入社 3 年目、女性の会入会 2 年目の小野と申します。仕事は、コンクリート製品の設計開発です。入会してからしばらくは、オンラインイベントが中心で、イベントへの参加はしていなかったのですが、今年 3 月、仙台で行われた現場見学会が初めてのイベント参加となり、今回の総会にも対面で参加することになりました。



【山田堰にて】

2. 1 日目～災害伝承館・土木遺産見学会

羽田空港から初めての飛行機に乗り、お昼前に福岡空港に到着しました。飛行機のチケットを予約したり（安く乗る方法が色々あるのだな、ANA アプリは便利だな、と思いました）、搭乗前手続をしたり、（今回は荷物も少なく、スムーズに通過）飛行機に乗ったり（狭かったですが、飲み物のサービスがありがたかったし、本も 1 冊読めました。）新鮮な体験ができました。福岡空港の博多駅へのアクセスの良さは、本当に便利だと思いました。九州支社の方と合流し、お昼を食べ（鯛茶漬けと明太子をいただきました。美味しかった！）集合場所へ。

バスの中には初めてお会いする会員の方々が大勢いらっしゃり、とてもにぎやかでした。バスの中で鑑賞したペシャワール会のビデオは、最

後部座席に座っていたため画面まで遠く、字幕が見えなかったのは残念ですが、用水路工事～運用までの苦労の道のりがとても興味深かったです。災害伝承館では、東峰村の当時の状況の話の聞いたり映像を見たりしました。自身は豪雨災害を経験したことは無いのですが、昨今地元の静岡で、豪雨による被害が報じられることが何度かあり、他人事ではないと感じるようになっていきます。

災害伝承館の後は、山田堰、堀川用水、水車群の見学でした。江戸時代の土木技術が、現代でも古びずに残っていることに感動しました。水車群の近くに養蜂場があり、そこの売店で食べたソフトクリームは暑い日だったのもあり、とても美味しく感じました。

見学会の後は、博多駅ビル内のレストランで行われた懇親会に参加しました。夕陽と海と福岡市街がよく見える席で、料理も美味しく、博多の夜を満喫しました。席のシャッフルがあり、多くの方とお話しし、女性の会の運営の話や仕事の話、趣味の話、住んでいる地域の話の聞くことができてよかったです。

3. 2 日目～総会

総会は、ももちパレスにて行われました。ZOOM 参加の方も多く、お子さんと一緒に参加されている方もいました。事務局の方々のスムーズな運営のおかげで、総会は滞りなく進み、最後は ZOOM 参加の方々含め写真撮影をしました。次に総会に参加するときには、顔見知りが増えていくといいな、と思いました。



はじめての総会参加

伊藤 夏美

（東日本支部）



入会して 2 年目になり、今回初めて総会に参加致しました。1 年目はコロナの影響もあり、イベントも参加する機会が少な

ったですが、コロナも終息し、今年度の総会は現地開催ということで、全国の会員の皆さまと直接お会いできるのをとても楽しみにしておりました。

関連行事も参加し、これまで福岡の自然災害についてニュースで知る程度でしたが、バス移動中の動画やいくつかの見学場所を実際に見ることで、深く知ることができました。特に印象的だった場所は、山田堰です。江戸時代に干ばつで苦しむ農民たちを救うため、筑後川右岸の耕地を水田化するために設けられた井堰とのことですが、今もなお当時の形を留めつつ、筑後川の水圧と激流に耐えられるような構造であることを知り、とても驚きました。山田堰の大きさにも圧倒されました。



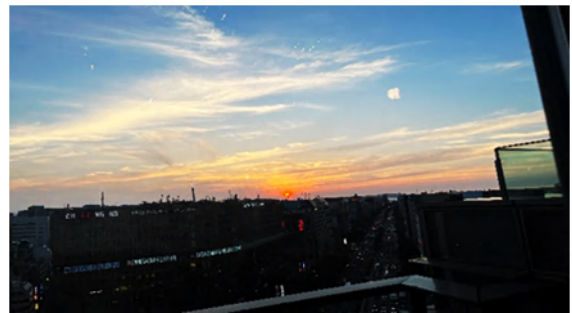
【山田堰見学】

懇親会では様々な支部の方とお話をすることができました。九州支部の方がゲームを開催してくださったり、コロナ前の総会の様子を聞いたり、九州支部の方には福岡名物の食べ物を教えていただいたりと、知らない人ばかりで初めは少し緊張していましたがとても楽しく、気が付くとあっという間に時間が過ぎていました。

翌日は総会に参加し、会社でも総会に参加したことはないので人生初の総会でした。会ほどのくらいの資金でどのように運営されているのか、各支部の昨年度の取組や今年度予定されている取組について聞くことができ、会についてより深く理解することができました。

私が勤めている会社は技術系の女性がとても少ないのですが、このような会で様々な技術系の仕事をされている方と繋がり、お話をすることができとても嬉しいです。今年度はイベントも多く企画してくださっているとのことなので、積

極的に参加し、会の方々とたくさんお話ができたかなと思っています。普段は男性が多い中での業務ですが、この2日間、女性に囲まれながらの活動はとても楽しく、心が穏やかな気持ちになりました。また、皆さまとお会いできる日を楽しみにしております。



【懇親会会場から見た夕焼け

とても綺麗でした】



感動の総会関連行事



田中真弓
(東日本支部)

1. はじめに

記念すべき創立 40 周年の総会は、会場と web のハイブリッドで開

催されました。前日には、4 年ぶりとなる総会関連行事も行われました。私は 2000 年に入会しましたが、ここ 7~8 年は現場勤務や子供たちの部活動サポートなどのため参加出来ておりませんでした。今年、下の子が大学に入学し、自分の時間が持てるようになりましたので、久しぶりに両行事に参加しました。

2. 総会関連行事

今回は、①福岡県東峰村災害伝承館、②朝倉市山田堰、三連水車を貸切バスでまわる見学ツアーでした。車中、アフガニスタンで山田堰を参考にした灌漑事業を成し遂げた中村哲医師のドキュメンタリー動画を視聴しました。本当に人の命を救うには、広大な農地に水をひかなくてはならない、と未経験の土木工事に取り組

み、完成に導いた強い意志や情熱に、土木技術者の原点を見ました。



【東峰村災害伝承館】

東峰村災害伝承館では、実際に元消防士で現在東峰村の防災担当をされている阿波康成さんに、2017年九州北部豪雨による災害発生当時の生々しい救助や避難の様子から、その後の村の防災活動をご紹介いただきました。もう少しで対策工事が完了するということでしたが、今年2023年7月9～10日にまた記録的な大雨に見舞われ、幹線道路である国道211号が通行止めになるなどの被害が出ておりました。この通行止めは2023年7月20日に解除されたとのことで、孤立状態が解消されて本当に良かったです。

朝倉市山田堰は、想像をはるかに超えたスケールで、古人の知恵にただただ感動しました。日本唯一の傾斜堰床式石張堰で、堰長 320m、

堰高 3m、総面積 25,370m²。江戸時代の原型を留め、今でも魚も人（舟）も通ることができ、しかも必要な水を農地にも送ることもできます。洪水時には堤体越流する高度な堰で世界かんがい施設遺産に登録されています。機会があれば是非見に行ってください。オススメです。

3. おわりに

子育てが一段落しましたので、また、このような機会があったら参加したいと思います。仕事は不慣れなマネジメント業務で、時にストレスが高い時もありますが、自然の中に出て、昔の人の偉業に触れて感動し、明日の自分の活力にしていきたいと思っています。こういった行事への参加を通して、楽しくリスクリングしていきたいと思っています。最後になりましたが、今回素敵なツアーを企画いただきました、九州支部の皆様、本当にありがとうございました。



【朝倉市山田堰】

メディア掲載

会のウェブサイトには最新情報を掲載しています。<https://www.womencivilengineers.com/related-article>
サポーターおよび新規会員募集

一般社団法人土木技術者女性の会では、当会の活動をさらにパワーアップするため、私たちの理念に賛同し、継続して活動を応援して下さる「サポーター」を広く募集いたします。皆さまのご支援をどうぞよろしくお願い致します！ <https://www.womencivilengineers.com/admission/membership-type>

寄附制度のご案内

土木技術者女性の会は、土木学会誌（1982年9月号）に掲載された「座談会：女性土木技術者おおいに語る」がきっかけで1983年1月に発足しました。任意団体として30年の長きにわたり活動をし、2013年11月18日（土木の日）に一般社団法人 土木技術者女性の会として新たなスタートを切りました。全国規模での総会、見学会やセミナー、シンポジウムや支部による活動などを通じて、女性土木技術者、将来の女性土木技術者に対して幅広い年齢層のロールモデル提供の場、指導者育成の場、キャリア継続支援の場を提供しています。

つきましては、当会の社会貢献活動への取組をご理解いただき、ぜひ、一般社団法人 土木技術者女性の会への御寄附をお願い申し上げます。<https://www.womencivilengineers.com/donation/guidance>



牛山育子会長 ホトケの文書講座 －其の参－

【問い】 次の「させていただきます」を含む文のうち、正しい言い回しはどれでしょう？
(答は複数ある場合があります。)

- ① (イベント会場や講演会等で) 本日の司会を務めさせていただきます●●です。
- ② 私は今年、〇〇大学を卒業させていただきました。
- ③ 本日は貴重なお話を伺わせていただき、感動させていただきました。
- ④ 〆切は今月末とさせていただきます。
- ⑤ 今日は体調が悪いので、早退させていただきます。
- ⑥ (何かを譲ってもらって) ありがたく使わせていただきます。



「させていただきます」は敬語の謙譲語にあたります。敬語を外した基本形で言えば「させてもらう」ですね。「させてもらう」の裏には、「〇〇してもいいかな?」「いいよ」「じゃ、させてもらうね」という会話が隠れています。相手からの許可や恩恵を受ける場合に「させていただく」という言い方が成立するのです。

⑤は相手が早退する許可をもらうために、「早退していいですか?」「いいですよ」「じゃ、早退させてもらいますね」という一連の流れが裏にあって、発せられた言葉です。

⑥は、相手からの恩恵があって、お礼とともに発せられた言葉です。恩恵を受けた場合も「させていただく」は使えます。



要は、「させていただく」は、相手からの許可が必要ない、恩恵がない場合は、敬語の使い方としてふさわしくないのです。

①は、事前打ち合わせのスタッフ同士での会話なら成り立つかもしれませんが、会場の参加者に司会者を選ぶ権利はありません。許可は不要です。会場でこの発言をされても、参加者が許可しないから司会者を変えろというのは無理な話です。そんなに司会者が気に入らないなら参加しなければいいことです。司会者も、まるで許可をもらわないといけないかのようなへりくだり過ぎた表現は使わず、「今日の司会者は私だ」と堂々としていけばいいのです。

②は、大学から許可されたから卒業できたと言えばそうなのですが、「卒業」とは誰かにお願いして許可を得るものではありません。自分がちゃんと勉強して必要な単位を取ったからであって、「卒業しました」で十分です。特段の敬語を使う必要もありません。

③は、これらの間違った選択肢の中でも特に酷い表現だと思います。「～いただく」が

二つも重なっているだけでも慇懃無礼な感じがします。また、「伺わせていただく」は「伺う」という「聞く」の謙譲語と、それに「いただく」という「もらう」の謙譲語がくっついた二重敬語です。二重敬語は敬語の使い方として間違いです。それに、感動したのは誰？ 自分自身ですよ？ 自分の発する「感動した」という感情に敬語を使う必要はないですし、そもそも感動するという行為に許可が必要でしょうか？「感動しました」で十分、というか、「感動しました（感動いたしました）」としか言えないです。

④ は、よく見る表現ですが、これも正しいとは言い難いです。×切を決めるのは発信者ですから、その人が相手の許可をもらって×切を決めるわけではありません。大抵、一方的にいついつまでに回答せよ、との「指示」ですので、受け取り方によっては上から目線の印象を与える可能性があります。こういった表現は避けた方が良いでしょう。

よって【答】⑤、⑥ になります。

ちなみに、①～④の正しい言い回し例は以下のとおりです。

① 本日の司会を務めさせていただきます
●●です。

→ 本日の司会を務めます●●です。

② 私は今年、〇〇大学を卒業させていただきました。

→ 私は今年、〇〇大学を卒業しました。

③ 本日は貴重なお話を伺わせていただき、感動させていただきました。

→ 本日は貴重なお話を伺い、感動いたしました（感動しました）。

④ ×切は今月末とさせていただきます。

→ ×切は今月末といたします。



「させていただきます」は非常に使いやすい敬語だと思います。私は極力使わないように気を付けています。使いたくなったら、「～します」「～いたします」と言い換えてみましょう。それで意味が通じれば、余計な敬語は必要ありません。相手を敬う気持ちは十分伝わります。

「させていただきます」という表現の良し悪しについては、いろいろな本も出版されています（『させていただきます』の使い方というそのものズバリの書名の本もあります）し、ウェブ上にも有益なサイトがいくつもあります。データが少し古いですが、「させていただきます」に違和感を覚える人の割合が回答者の半数以上だったり、この表現を聞くと「なんと軽薄な」と思う、といったかなり辛辣なコメントが載っていたりするサイトもあり、結構評判の悪い言い回しであることが分かります。以下に、私が参考にしたサイトを掲載しておきます。

（参考1）[「させていただきます症候群」が増えている！？これさえ使えば丁寧？指摘される理由と正しい使い方 \(crassone.co.jp\)](https://www.crassone.co.jp/blog/8449/)

<https://www.crassone.co.jp/blog/8449/>

（参考2）[【失礼な敬語】「させていただきます」の使い方を間違えていませんか？ | TABI LABO \(tabi-labo.com\)](https://tabi-labo.com/)

<https://tabi-labo.com/216833/keigo2>

（参考3）[\(2 ページ目\)「“させていただきます”を“適切”に使っても現役世代はイラッとする」新入社員が一生使える“敬語”のルール | 文春オンライン \(bunshun.jp\)](https://bunshun.jp/articles/-/53125?page=2)

<https://bunshun.jp/articles/-/53125?page=2>

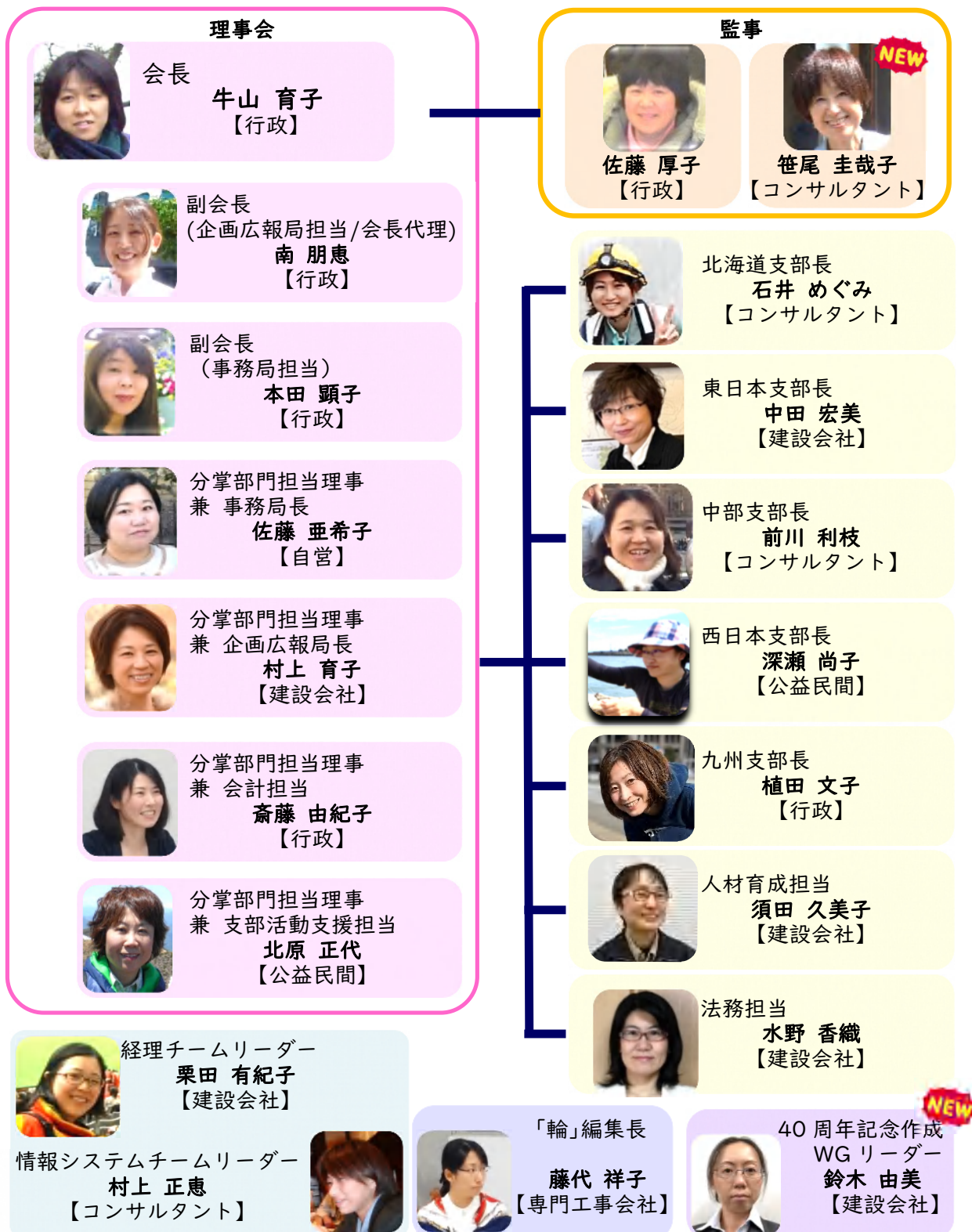
次回もお楽しみに！

※間違いとしてとりあげている日本語のうち、いくつかは現代日本語として許容すべき、という意見もある言葉も含まれています。その意味で、間違いとまでは言い切れない言葉もありますが、「本来の正式な日本語としてはどう表記すべきか」に主眼を置いています。その点に注意してお読みください。

(一社)土木技術者女性の会 組織図 2023



2023年度の運営委員をご紹介します。当会の運営は、このほかにも各組織・各支部に多くの有志によるスタッフが所属し、支えられています。スタッフは随時募集していますので、興味のある方は所属する支部の支部長までご連絡ください。



●●●●●●●●●● 新任運営委員の紹介 ●●●●●●●●●●

今年度は、監事や WG リーダーの交代がありましたのでご紹介致します。



監事就任にあたって

笹尾圭哉子
(東日本支部)

このたび監事に就任しました笹尾です。1990 年に入会し、1996 年度から 2011 年度までに関東地区世話役補佐、同世話役、事務局長を経験しました。200 名程度で推移していた会員数が現在では 500 名規模となり、大きな組織になったと実感しています。また、今年の総会に（オンラインではありますが）久しぶりに参加し、組織的な運営がなされていると感じました。会の活動に関しては、10 年余りの間にすっかり浦島太郎状態（この表現、若い方に通じるでしょうか？）になってしまいましたが、少しずつアップデートしていきたいと思います。

プライベートでは、数年前に定年退職し、嘱託として継続勤務しています。仕事量はかなり減ったものの、様々な社外活動と家事に追われて忙しくしています。愛犬との二人暮らしでして、何事も愛犬ファースト、夜のイベントはすべてパスして速攻で帰宅します。

さて、肝心の監事の仕事につきましては、法人運営マニュアルより、端的には「理事の職務執行の監査」と理解しています。会の健全な運営に寄与する大変責任のある仕事だと思いますので、気を引き締めて努めていきたいと考えています。よろしくお願い致します。



**40周年記念誌
作成 WG リーダー
就任にあたって**
鈴木由美
(西日本支部)

このたび、40 周年記念誌作成 WG リーダーに就任しました鈴木由美です。

建設会社に勤め始めて 17 年、当会に入会して 10 年、出産後に入会したこともあり、本業と子育て等で時間に追われ、なかなか会の活動に参加できずにいましたが、支部長からのお声がけて 40 周年記念誌作成 WG に立ち上げ時からメンバーとして参加し、今年度よりリーダーを務めることになりました。

記念誌を作成するにあたり、過去の資料を読み、歴代会長からお話を伺い、若手会員や全会員からの声を聞き、改めて 40 年続く当会のエネルギーを感じています。そのエネルギーを会員の皆様にお伝えできるよう、そして、会の歴史書となるように WG メンバー丸となって記念誌の作成を進めてきました。

2023 年 11 月 18 日、ついに完成したことをご報告できました。全体で 60 ページを超えるボリュームのある記念誌となっていますが、読みやすいように電子ブックにしています。ぜひともご覧いただき、カラフル・パワフル・ハートフルな女性土木技術者たちの魅力と情熱に触れていただければと思います。



運営委員 退任によせて

新体制移行にあたり、監事の三好葉子さんが退任されました。長年、当会のためにご尽力いただきましたことに、改めて感謝申し上げます。



40年の歴史を持つ土木技術者女性の会。時代の流れや求められる形に適応しながら成長を続け、2013年からは、皆さんもご存知のとおり、法人格を有する団体となりました。2019年第7回総会の承認を経て理事会が発足。これに伴って必要となった「監事」という役割を2期4年間務めて参りましたが、この度、任期満了で退任いたしました。

私は前職「会計監査」でした。これは皆さんも仕事のイメージがしやすいと思うのですが、さて、「監事」はご存知でしょうか？「幹事」じゃありませんよ。

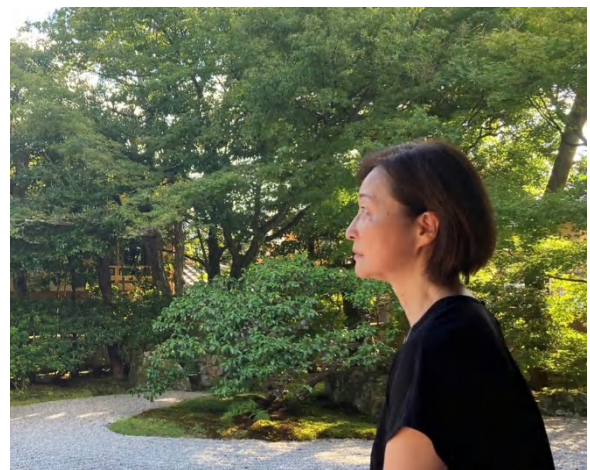
会の定款には、「理事の職務の執行を監査し…」(第22条)とあります。理事や理事会が適正に業務を行なっているか見張る、言わば「お目付け役」で、会計だけでなく事業全般についても監査を行ないます。

依頼をいただいてから、大ごと～！果たして自分に務まるものなのか？…と、書物やネットで調べたり。任についてからも、役割と責任を正しく理解するため、会から仕事内容や留意すべき点をマニュアルやチェックシートにまとめてもらい、また、参考書籍もいただいたり自分でも探し

たり。それらに頼り・すがり、模索しながらなんとか務めてきました。

理事の皆さんは本当に精力的に、会のため・会員のため、日々活動しています。それを近くで見守ることができたのは、とてもよい経験でした。ありがとうございました。

会計監査時代からゴールデンウィークは気忙しい時期だったので、来年からはゆっくりさせていただきます(へへ)



【京都にて】





サポーターコーナー vol.2



このコーナーは、当会の理念に賛同し、活動を継続して応援して下さるサポーターの皆さまと交流を図るものです。

2023年8月1日現在、28団体、94名の方に当会のサポーターとして賛同・ご支援いただいております。

【サポーター団体（入会順）一覧】

1. 日野興業株式会社
 2. オリエンタル白石株式会社 福岡支店
 3. 株式会社近畿地域づくりセンター
 4. 一般社団法人 近畿建設協会
 5. 日本プラスチック型枠工業会
 6. 一般社団法人 兵庫県建設業協会
 7. シビックアーツコンサルタント株式会社
 8. 株式会社バターマネジメント
 9. あおみ建設株式会社
 10. ヤマダイインフラテクノス株式会社
 11. 株式会社ネクスコ
東日本エンジニアリング
 12. 鹿島建設株式会社 九州支店
 13. 中林建設株式会社
 14. 一般社団法人 プレストレスト・
コンクリート建設業協会 九州支部
 15. 株式会社砂子組
 16. 株式会社日新ブリッジエンジニアリング
 17. 株式会社アイサス
 18. 株式会社ハマネツ
 19. 株式会社熊谷組
 20. 川崎地質株式会社 九州支社
 21. 江上建設株式会社
 22. 株式会社丸元建設
 23. 日本ヒューム株式会社
 24. 西松建設株式会社
 25. 株式会社サイガ
 26. 第一復建株式会社
 27. 大阪市都市整備局局長会
 28. ハイテック株式会社
- 計 28 団体

【個人サポーター（業界別）一覧】

- ・建設会社 62 名
 - ・コンサルタント 7 名
 - ・官公庁 5 名
 - ・学校 3 名
 - ・公益民間 4 名
 - ・その他 13 名
- 計 94 名

【サポーターさんとのイベント紹介】

★Civil Engineer への階段（第3回）★

管理職にこれからなる・なったばかりの会員を対象に、管理職になることへの不安を払拭することを目的とした交流会第三弾です。

今回は「噂の土木応援チームデミーとマツ」のマツさんこと松永昭吾さんを講師としてお招きします。

○日時：2023年12月2日（土）14:00～

○開催地：ウェブ会議

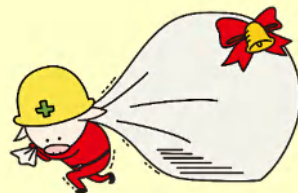
（当会の Zoom システムを活用）

○講師：松永昭吾さん（当会サポーター）

○詳細：

<https://www.womencivilengineers.com/archives/9084>

今後、サポーターコーナーを充実すべく、サポーターたよりなどの掲載を予定しております。会員の皆さまの意見や希望するイベントなどあればドシドシお寄せください！



（まとめ：九州支部 高橋典子）



<編集後記>



"逃げタオル"は全国区にしたい取組ですね！ 来年度は北海道にてお待ちしております～♪

☆福島香菜子（北海道支部）



総会は4年ぶりの対面開催だそうです。関連行事も楽しい雰囲気が伝わってくる紙面になっています！

☆松田めぐみ（西日本支部）



初めての九州での総会・関連行事の開催は、初めてのことで大変なことはたくさんありましたが、なんとか無事に終わってホッとしています。次は、北海道！ 行きたいな！

☆高橋典子（副編集長/九州支部）



久しぶりの対面総会、本当に楽しい時間でした～！ 仕事が基になるつながりだけれど、それだけには留まらないところが当会の良さの一つだと改めて感じました。『ホトケの文書講座』では、輪編集時にもよく指摘される内容を執筆いただき掲載しました。これを意識すると、普段の仕事でも気になる～ことが増え、正しい日本語を…と心がけるようになりました！

☆藤代祥子（編集長/中部支部）

「輪」への投稿・ご意見は「輪」編集委員へ、
その他のお問い合わせ、ご意見は事務局まで、お願いします。

「輪」編集委員:rin@womencivilengineers.com

事務局:infoswce@womencivilengineers.com

【「輪」編集委員】

藤代祥子（編集長/中部）/福島香菜子（北海道）

熊本好美（東日本）/松田めぐみ（西日本）

高橋典子（副編集長/九州支部）

【事務局】

佐藤亜紀子（事務局長）

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷三丁目1番9号矢沢ビル4階

TEL 050-3738-4975

<https://www.womencivilengineers.com>

「輪」2023年度 秋号（第74号）

2023年 11月 28日発行

一般社団法人 土木技術者女性の会

The Society of Women Civil Engineers



一般社団法人 土木技術者女性の会
「輪」 2023 年度 春号(第 74 号)